

令和元年 12 月 12 日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

それでは、ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。先ほどご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。本日の話題は2件になりますので、市長よろしく願いいたします。

【市長】

はい、年もおし迫ってまいりました。一年お世話になりましたというのはまだ早いかな。

まずは今日、エスパルスは良かった。J1残留なんとか遂げました。本当に応援ありがとうございました。課題は山積ですけども、今年の戦いぶりを踏まえて、来年さらにたくましくなってくれることを私たちは応援をしていきたいなというふうに思います。

それでは今日の話題は2つ。

まずは、シティプロモーション 2019 の話題であります。しずおか市大好きを発信、シティプロモーション 2019 を、来週 18 日、水曜日、東京プリンスホテルにて開催をいたします。今まで記者発表会は首都圏での情報発信を、静岡市交流会は首都圏でのネットワークの強化を目的に開催をしてきましたが、今年はその情報発信力の強化をより高めるために、この2つを一体化させていきます。

今年の4月に市長公室を新しい部署として設置をいたしました。総務局市長公室が主催で、秘書課、広報課、そして東京事務所が三位一体となってこの2つをプロデュースし、全局のそれぞれの担当職員の協力を得ながらオール静岡市で進めるというのが、今回初めての試みであります。

共通のテーマは「静岡流のおもてなし」。発表会、交流会を通じて官民一体、職員一丸となり、オール静岡市でおもてなしをすることにより、本市が世界に誇る魅力を首都圏メディアや、本市ゆかりの方々へPRをしていきます。12 月は市政記者クラブの皆さんもお忙しいとは思いますが、ぜひね、東京出張、この東京プリンスでの交流会、参加をしていただきたいなということをお願いいたします。いかに私たちが情報発信力の強化に力を入れているかということ、広報課以外の職員にも自らPRするということが大切なんだという、当事者意識を持って一生懸命頑張っている姿を、ぜひ、東京プリンスまで足を延ばしていただき、取材をしていただければ大変ありがたいんですけども、ぜひ本社もある記者もいらっしゃいますので、東京に出かけていっていただければありがたいなというふうに思います。東京の記者が来るんじゃ意味が無いんですね。静岡の市政記者クラブの皆さんが東京に行っていただいて、そして現場で、このシティプロモーションを感じていただけるということで、私たちのPR強化、本気なんだということを感じていただければなと思います。

これは何度も、始めた頃に申し上げたことなのでご存知の方いらっしゃるかもしれませんが、学生時代の友人に「なあ田辺、静岡はいいところたくさんあるのにPRが下手だなあ」と、「なんで、もっと積極的に自己PRをしないんだ」と、「情報発信をしないんだ」と、そんな風にずいぶん言われました。それが私は悔しかった。ある意味穏やかでおとなしい市民性ですので、俺が俺がというふうにはね、世界的に見ればラテン系の人たちとか、日本で見れば関西の人たちとかね、俺が俺がって

前に出る、そういう市民性は持っていないのかもしれないけども、しかし、勇気を振り絞って、アピールをしていかないと、やはり存在感のある都市のPRはできないなというふうに、ある意味での大げさに言えば意識改革をしながら宣伝をしていくという場所でもあります。

静岡県は先立ってふじのくに交流会というものを東京で開催をしました。今年も行ってきたよという記者の皆さんもいらっしゃるかもしれませんが、やっぱりこのアイデンティティは静岡市ですので、やっぱり静岡市でやってもらったらこっちの方にむしろ行くよ、ということをおっしゃってくださっている首都圏の静岡の支店長を務めた方、メディアの歴代の支局長さんにも声をかけておりますけれども、そういう方々に来ていただいて、そして、静岡を懐かしんでいただいて静岡の海の幸や山の幸も堪能していただいて、さらにお力をいただいて静岡市に、いい静岡の宣伝をしていただければいいなとそんな気持ちであります。どうぞよろしく願いいたします。

当日は、まず16時から第1部として、記者発表会で来年のオリンピック・パラリンピックを見据えて官民連携で静岡市の持つワールドクラスの魅力を発信し、国内外からお客さまをお迎えをする本市のおもてなしの体制がいかにか整っているかを、首都圏のメディア約100社100名の方々を対象に広くPRをしていきます。次に18時30分からは、第2部としての静岡市交流会、いわゆる静岡ナイトというやつですね。首都圏在住の本市ゆかりの方々約500名をお招きし、協力企業と連携したPRブースの出展や静岡市の食材を使用した料理の提供などによってSDGsを基盤とした本市のおもてなし体制をPRします。

参加者の皆さんに本市の良いところを再発見していただき、静岡市に住みたい、行きたい、紹介したいという気持ちを抱いていただけるよう、静岡市それぞれの職員や民間企業の皆さんにPRをしていただきたいと思います。当日は4時から8時まででありますけれども、ぜひ、いらっしゃっていただきますよう重ねてお願いをします。

2つ目は、SDGs月間のお話であります。お手元にできたてほやほやのタブロイド版をお配りしていると思います。これも目を通していただけましたでしょうか。第2号になりますね、今年に続いて第2号になります。企画局の職員が頑張って今年もわかりやすいマガジンを作っていただきました。

昨年、SDGsの認知度を高めようという目的で第1回のSDGs関連事業の集中開催を意図してSDGsウィークというものを行いました。たいへん好評でありました。また、認知度も2〜3%から30数パーセントまで格段に高くなりました。そこで、今年は、ウィークをマンスにSDGs週間をSDGs月間というふうに開催期間を延ばして、行っていくということでもあります。

お手元の資料の4ページ5ページ、こちらお開きいただきたいと思います。ここにSDGs月間で催される各局のイベントの一覧が時系列的に掲載しております。関心のある事業をぜひ取材をしていただければ嬉しいなというふうに思います。どうもSDGsというと環境問題なんかが先に立つんですけど環境問題だけではない、17の目標に沿ったさまざまなイベントが行われております。

このカレンダーの中から特にオススメするイベントを3つ紹介します。一つ目のおすすめは、4ページのナンバー02ですね。「人に未来に環境に、学生のための優しい会社の見つけ方」、この就活支援のイベントであります。これは、女性の静岡市内への雇用確保という意図もあるわけですが、静岡に隠れた、企業の規模は小さいけれども、とても素晴らしい経営を行っているSDGsの

理念に沿って経済活動をしているそんな会社を紹介をする催しであります。

私も、学生と、この前も常葉大学に講義に行ってきましたんですけども、接して感じるのが、就活するにあたって、給料が高いとか、休みが多いとか、そういうね、ところも目の付けどころなのかもしれないけども、やっぱり民間企業であれ、特にメディアの企業なんてのは、その最たるものですけども、自分の仕事が社会に役立っているんだと、公共性を持っているんだということを、とても重要な物差しにしている学生が増えていると思います。

私の学生時代っていうのはね、バブルの頃で金融機関が全盛の頃でありましたので、とにかく給料が多いところを、あるいはボーナスが多いところと。そして、大手の企業というような志向が、すごく強かったんですけども、この頃の学生は、また東京の企業っていう志向性が強かったんですか、この学生はそういうことではないんですね。むしろ地方創生の時代で、静岡の企業であっても、その働きがいがあるか、その働きがいの内容が公共性を持っているか、地域貢献をしているかと、そんな意識で就活をするという学生が総体的に多くなっているように、そのマッチング、そんな学生と、ここへ参加する企業のマッチングができれば、うれしいなというふうに思って、企画課が準備をしたものであります。

2つ目のイベントは、右のページ、5 ページにいりますが、オレンジのナンバー11。「東京SDGs吹奏楽団新春スペシャルコンサート」ということです。演奏テーマはSDGsのターゲット 14、「海の豊かさを守ろう」であります。で、これは若手の職員がプロジェクトチームを作って準備をしてきた、そういうコンサートであります。ポイントは3つあります。

1つ目は多様な連携であります。このコンサートの趣旨に賛同していただいた企業であるとか、学校であるとかそういう方々から、無償で楽器を貸していただいたり、チラシを作っていただいたりなどの協力をいただき、これ目標 17 です、ね、「パートナーシップ、つながる力」というのを具現化するコンサートになっています。

2つ目は特別な経験であります。これ非常にレベルの高い吹奏楽団なんですね。JICAの誇る演奏家たち、プロの演奏家たちから、市内の中学生や高校生たちが、事前に指導を受けた成果をこのステージで発表する、合同で演奏するという作り方になっています。ここでの指導を得た経験、演奏をした経験というのは、それから、音楽ということを愛好する子どもたちにとっても、自信を与えたり、思い出になったり、若者たちの胸に深く刻ままでいくということを期待をしています。

3つ目は、SDGs賛歌というものを作詞作曲してもらったんですけども、その静岡県内での初披露の場所だということです。楽団の指導者である、さかはしや波さん作詞作曲の楽曲であります。プロの演奏にあわせて、市内の大学生のコーラス部員が合唱をしてもらいます。花を添えてもらいます。演奏会無料です。入場に必要の整理券は、今、区役所で配布をしています。ぜひPRをお願いしたいと思います。

そして、3つめのイベント。これはもちろんオレンジの番号 15 番、「静岡市SDGsシンポジウム」。これが「SDGs Month」のファイナルを飾る、最後を飾るイベントになるんですけども、これは1つ前の3ページに、池上さんとか近藤さんの記事が載っておりますけれども、彼らにパネリストとして静岡市に来てもらって、学生や経済人にSDGsのさらなる啓発をお願いをするものであります。

結局、3ステップなんですね、SDGsに対する取り組み。市民に対して3ステップ。それは何かというと認知・理解・行動というステップなんですね。まずはSDGsってなあに？でこのバッチをつけている市民が、この1年半でずいぶん多くなったことは、皆さんも実感をしてくださると思います。まず認知をしてもらおうと。でこのバッチなあに？と。

SDGsってなあに？というところから次のステップの理解に進む。これはとりわけ、朝日新聞さんとか、あるいはや日本経済新聞さんが、朝日新聞さんはどちらかという教育の観点から、日本経済新聞は経済の観点からずいぶんSDGsの理解を深める、これをやらないと国際社会のルールが、これから変わっていくから、これに合ったような企業を経営しなきゃいけないんだよ。教育を授けなきゃいけないんだよと、そういう理解を深めるような記事を書いてくれておりますけれども、まずその意味、内容、コンテンツ、ちょっと国連がやっている雲の上のSDGsが、自分たちのこと、我が事だというふうに理解をしてもらう、そのステップが次であります。

この認知の次に理解がいったら、その次が「そうだね、これ大事だね。じゃあ自分も地球に良いようにマイ水筒を持っていこう」であるとか、やはり女性の方も60歳までちゃんと働けるような、そんな気持ちになろうとかいう行動に、繋がっていくわけであります。

そんな啓発をしていくファイナルのシンポジウムにしていきたいというふうに思っています。

これが3つのオススメイメントであります、昨年来、続けている6ページ、7ページに掲載をしているSDGsコレクションも少し説明をさせてください。去年ね、その北館では東京ガールズコレクション華やかに行われているわけですよ。南館でこのコレクションをしているんですけども、その北館でその前日からね、そのモデルに会いたい、少しでも良い席をとりたいということで待ち構えている、その東京ガールズコレクション目当ての方々がたくさんいるわけですね。そこはもう満員御礼で8,000人ぎゅうぎゅう詰め。その方々が、必ずしも、その北館(注南館)の方を見てくれたかという、もう東京ガールズコレクションオンリーということも多かったんですね。

なので、そこをなんとかしよう。なるべく多く、東京ガールズコレクションが目当てであってもモデルさんたちもSDGsって事実で大事だというメッセージを観客に投げかけてくれるので、南館の方も寄ってみようかなと思わせる誘導をしていくために、この南館でパブリックビューイングをする、つまり、映像の上だけでも大画面で北館と同じようなパブリックビューイングで、東京ガールズコレクションが、しかも、こちらは無料で楽しめるよという仕掛けをした。で、少しでもその南館の方に、人を誘導したいというふうに意図して、このような形になっています。

今年度も、市内企業や学生など多くの仲間たちと手を携えたこのSDGsコレクション、昨年の来場者数1万人を超えるお客様を迎えるべく、7ページの右下にも記載しているように、北館の東京ガールズコレクションのチケットをお持ちでない方も、東京ガールズコレクション出演者の生のトークをお楽しみいただけるアフターTGCも、先ほど私が申し上げた方向の中で企画をしているものであります。皆様にも積極的にPR・取材をしていただければ嬉しいなと思います。

このタブロイド判は3万部印刷をしました。一人でも多くの方々に手に取っていただき、どの事業・どのイベントでも結構です。SDGsに関連するイベントに参加をしていただき、認知・理解を深めていただきたいと、具体的な行動に移すきっかけにさせていただきたいというふうに願っております。それ

がこのMonthの開催目的であります。以上、2つ目の話題でありました。よろしくお願いいいたします。

【司会】

はい、それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方お願いいしたいと思いますが、ご質問の際は社名をお願いいしたいと思います。いかがでしょうか。

はい、それでは、続きまして幹事社質問の方に移りたいと思いますので、幹事社さんよろしくお願いいいたします。

【朝日新聞】

幹事社の朝日新聞です。よろしくお願いいします。

学校給食の宗教的配慮についてお伺いします。学校給食課が今年の春に、市内の小中学校に実施した調査で、給食に関して宗教的な配慮が必要な生徒が、少なくとも市内に 33 人おり、主に肉類やアルコールが食べられない子どもたちがいるということが分かりました。当事者のイスラム教徒のお母さんたちに話を聞くと、給食で食べられないものは、子どもたちが自ら取り除いたり、給食と同じメニューをお弁当に入れて家で作って持参している生徒もいて、けっこう大変だという話もよく聞きます。市として、この調査の目的は何なのかということと、この結果をどう活かすかということと、宗教的な配慮が必要な子どもたちの給食に関して、何らかの対応する考えが、市長にあるかどうかを教えてください。

【市長】

はい、本当に多様な宗教的なバックグラウンドを持った子どもたちを誰1人取り残さないというSDGsの理念の中で、多文化共生社会をこう目指してね、学校給食の現場もそのように対応していくというのは、もう、自治体として、私は標準装備だと思っています。何もスペシャルにやるのではなく、オプションで、車で言うとな、車でいうとオプションで備え付けるんじゃないかと、標準装備にしなきゃいけない、そんな要素だろうというふうに私は思っています。だからこそ、まずは実態把握だということで調査を指示したわけであります。

その調査結果の中で、約 4 万 5,000 人いる小中学生の中で、宗教的配慮が必要な子どもは 33 人いるということが分かりました。ですので、教育委員会では、このような方々、また、これは今年4月、入管法も改正されておりますし、ますますあらゆる対応をしていかなければいけない、そういう子ども達が増えていくということを想定しながら、来年度中に何らかの対応、具体的には、食べられない食材を除いた給食が提供できるように準備をしていきたいと考えております。以上です。

【司会】

よろしいですか。はい、ありがとうございました。それでは、引き続き各社さんからのご質問をお受けしたいと思いますが、はい、NHKさんどうぞ。

【NHK】

NHKです。先ほどの朝日新聞さんの幹事社質問に関連して、対応ということですが、どの程度まで、例えばですね、豚肉を炒めた鍋で別のものを調理しないとか、アルコールが厳格なイスラム教徒の方はダメなので、アルコール消毒を食器類・調理器具について行わないですとか、そういった対応も含めてやるのか、それとも純粹に食材だけの対応に留めるのかはいかがでしょうか。

【市長】

もう、ステップバイステップで今、議論の最中ですので、教育委員会の方に取材していただきたいと思います。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

はい、静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。東静岡駅周辺の整備についておたずねします。先ごろ県の方で、南口に 270 億円をかけて整備するということが発表されたんですが、一方で、北口には市有地があると思いますが、こちらの整備の方向性をおたずねしたいというのと、あと世間にはですね、東静岡駅の北口と南口一緒に整備を進めたらどうかという話もあるようなんですが、この件について、県との関係について市長はどのようにお考えでしょうか。

【市長】

スポーツと文化の殿堂と、それを東静岡地区に拠点整備をしていくというのは、市も県も同じ方向性ですね。この前、今の記者の質問の前提は、静岡新聞が社説でね、市と県が連携せよという論文というか社説を掲載しましたが、私も、もうその通りだというふうに思っています。私たちが3次総の5大構想の中で教育文化の拠点づくり、東静岡また草薙地区周辺を若者が闊歩するまち、教育文化、スポーツを含めてね、そういう施設を集積をしている地域というふうに、今から進めていくわけですので、東静岡駅も北口・南口、その一体感を持った整備が必要だという観点から、私どもの職員と県の担当の職員と、実務的な連携のもと議論を進めているところであります。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございました

【司会】

中日新聞さん。

【中日新聞】

中日新聞です。大きく二点、伺いたいんですが、1点目。先日の市長会見でJR側からリニアのトンネル工事に関して、面会の要望があれば受け入れる姿勢というお話がありましたが、その後何かJRから申入れ等ありましたでしょうか。

【市長】

担当職員を通じて、あるいは直接、いろいろコミュニケーションは交わしております。しかしながら、静岡市に会うとか、来るとか来ないとか、そういう話はまだですね。この前、国土交通省の審議官が私どもを訪ねてくれましたので、JR東海には伝えて下さいねということは私の口から申し添えておきましたのでね、そんなことでコミュニケーションが、また再び活発化しているというふうに御理解いただきたいと思います。

【中日新聞】

ありがとうございます。もう一点、先日の議会での質問もありました清水庁舎の杭の問題につきまして、市長として、今後、解体費用が増える可能性について、可能性があるかどうかの認識について、端的にお伺いしたいと思います。清水庁舎の解体費が、今後、増える可能性があるかどうかについてお伺いします。

【市長】

改めて申し上げますと、庁舎の解体費7億2,000万円ですね。それを試算した時点では庁舎の跡地に桜ヶ丘病院の移転、すでに表明をされております。この点については、きちっとここで申し上げておきたいというふうに思います。庁舎の跡地利用が病院であってもなくても、建設される建物の規模や配置計画が決まっていない段階では、解体後の跡地の利活用方法が具体的には決まっていけないということから基礎杭の扱いなどについて、不確定要素があるというのは事実であります。そのため、現清水庁舎の解体については、建物基礎から地上の部分の躯体までの解体を基本とする考えは変わっておりません。端的に答えるとそういうことですね。

【中日新聞】

そうしますと、不確定ということなんですが、仮に今後、市の費用が増えない可能性があるのかというのを考えた場合に、それはすべての杭が撤去しないまま残るか、あるいはJCHO側が、全てその撤去費を負担する以外の可能性はないかと思うんですが、市側として今後、増える可能性があるかどうか、あるのかないのかについては、お聞きできますでしょうか。

【市長】

実務的にね、今日、この質問が想定されるかなと思ってアセット担当職員を同席させておりますので、そこから発言してもらいますけれども、それはまだ私の口からは分かりませんと。つまり、私とJCHOの尾身理事長と、こここのところを詰めていくと、JCHO側と私たちと、じゃあ、どういう役割分担にするのかと、費用分担にするのかと。そういうこともある中で、決まってくる話であるということで、ご理解いただきたいと思います。それではアセット統括監、お願いします。

【公共資産統括監】

公共資産統括監の吉井と申します。ただいまのご質問についてですけれども、議会等でも私の方から答弁させていただいたとおりですね、現在の清水庁舎の解体費用については、7億2,000万という数字を出しております。で、この金額について議会の中でも答弁させていただいたとおり、動かす予定はございませんので、今の段階ではこの数字が全てだということで理解しております。

【中日新聞】

わかりました。また、関連して、これはもしかしたら、事務方マターなのかもしれませんが、先日の議会の中で、現在の庁舎の前の駐車場の中に基礎杭が、さらにあるかどうかというのは資料がありませんというような話が出ておりました。で、市とJCHOが平成30年3月に開いた第1回協議の中で、市側の発言として前の駐車場に旧庁舎が立っていたことから、そこにも杭が残っているかもしれないので、今後、図面を確認し、把握した状況を提供するという話が出ております。この点を踏まえて、今後、この前の駐車場の基礎杭について調査をする予定があるのかどうか、お伺いします。

【市長】

これも本当に実務マターですので、統括監、お答えをお願いします。

【公共資産統括監】

庁舎解体法の状況についてはですね、JCHOが協議相手になると思いますので、その協議はまだ進んでおりませんので、今の段階でその部分について調査をする予定はございません。

【中日新聞】

そうしますと、再度、確認ですけど、平成30年3月では、今後、調査をして、把握した情報を提供するというふうに述べられておりますが、現時点では調査をする予定はないということでしょうか。

【公共資産統括監】

そのとおりでございます。

【中日新聞】

ありがとうございました。

【司会】

先ほどのですね、発表項目の2番目、SDGs月間の件で、ツインメッセ静岡の北か南か、こちらについて私の方からちょっと補足させていただきますが、イベントですけれども、静岡市が主催するSDGsコレクション、こちらはツインメッセ南館で。TGCのですね、こちらは北館で開催されますので、そこをよろしくお願ひしたいと思います。はい、途中で失礼しました。

はい、静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

静岡朝日テレビです。駿河湾フェリーについておたずねします。昨日の議会で駿河湾フェリーが、赤字が1億円という話も出たんですが、赤字が出た場合ですね、静岡市も負担が増えるということになると思うんですが、このことについては、いかがお考えでしょうか。

【市長】

これは、一度船に乗った以上、下支えをしていかなきゃいけないなと思っています。実際、市の職員も出向をしてもらって、たいへん力のある職員を駿河湾フェリーの方に、今、一生懸命頑張ってくれておりますのでね、なんとかこれが軌道に乗るまで、いろんなアイデアが出てきて、なかなか今年には台風もありましたしね。難しい状況だということは承知しておりますけれども、県市連携をして、下支えをしていきたいというふうに思っています。

【静岡朝日テレビ】

赤字が多くても引き続き支えていきたい、今後も続けていきたいということよろしいですか。

【市長】

そうです。とにかく赤字、出ない方がいいですよ。ただ、公設民営の難しさ、また、組織が始まってまだ1年も経ってない。なので、短絡的に赤字が出たから投げ出すということでは決していないと思います。また、これから、これも県市連携をしたグランドデザインの中で、駅直結、江尻にこのフェリーのね、乗り場を移すということになっていきますので、そうなればもっとも交通アクセス良くなって、需要があると思いますのでね、少しこれは中長期的に、インキュベートとしていかなければいけないんだらうなというふうに思っています。

伊豆の自治体からはね、これ観光需要だけではなくて、防災需要もあるんだよということもありますし、また、医療という立場でも静岡市内に有力な病院がある中、このルートが一つ命の道になっていると、海の道になっているということも要請をされているのでね、私たち、伊豆の自治体の期待にも応えていきたいというふうに思っています。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございました。

【司会】

はい、NHKさん。

【NHK】

すいません、清水庁舎の問題、私も二つ伺いますが、杭についてなんですけれども、先日の議会で、議員の方から「埋め殺し」という言葉も出ていましたけれど。

【市長】

何ですか。

【NHK】

埋め殺しという地中残置ですね。杭をそのまま残す。

【市長】

庁舎の件？

【NHK】

はい、庁舎の件です。地中残置について、埋め殺しという表現で、議員も質問されていましたが、実際、病院の建物の躯体を支えなくても、地盤を保持するために、あえて抜かずにそのまま置くということは、市として検討に値するかと考えていらっしゃるかどうかは、いかがでしょうか。

【市長】

それも検討しました。そういうことも含めて、今、幅広に議論しているという理解をしていただきたいと思えます。

【NHK】

それも選択肢だと？

【市長】

そういうことですね。

【NHK】

わかりました。また、その病院について、ちょっと従前より、くどい質問で恐縮なんですけど、前回の会見の翌日だったと思いますが、本会議で健康福祉長寿局長の方からの答弁の中でですね、医師確保の状況に関わらず、移転方針に変更はないと認識しているとありました。確認ですが、これ市長のご認識と一致するかどうかは、いかがでしょうか。

【市長】

一致します。医師の確保というのがね、一番、JCHOさんも頭をもたげている懸案であるということは承知していますけども、スペックがともあれ、とにかく移転の方針というものは、私たち支えていきたいと思っています。

【NHK】

これもとりよによってはですね、市が医師確保に積極的なことができなかった、あるいは成果が出なかったとしても、とにかく移転は変わらないんだからというふうにも取れてしまうんですが、そのあたり、どう。

【市長】

これは、すでにこの記者会見でも、私、申し上げたかなと思うんですけども、JCHOの方からその医師確保についても立地自治体、静岡市として協力をしてくれという要請を受けておりますので、それは私たち前向きにね、今、協力にどんなことができるのかということを考えています。

【NHK】

具体策はこれからということですね。

【市長】

はい。

【NHK】

わかりました。

【市長】

寄付講座を作るとかね、医学部の中にね。いろんなアイデアありますのでね、それ、これからですね。

【司会】

よろしいようです。はい、ありがとうございました。それでは、以上で本日の定例記者会見を終了

させていただきます。次回、今年、最後になりますが、24日、火曜日、午前11時からとなりますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。